

順応的管理におけるアンケートを用いた「景観」、親水性」についての検証手法

1. 検証手法

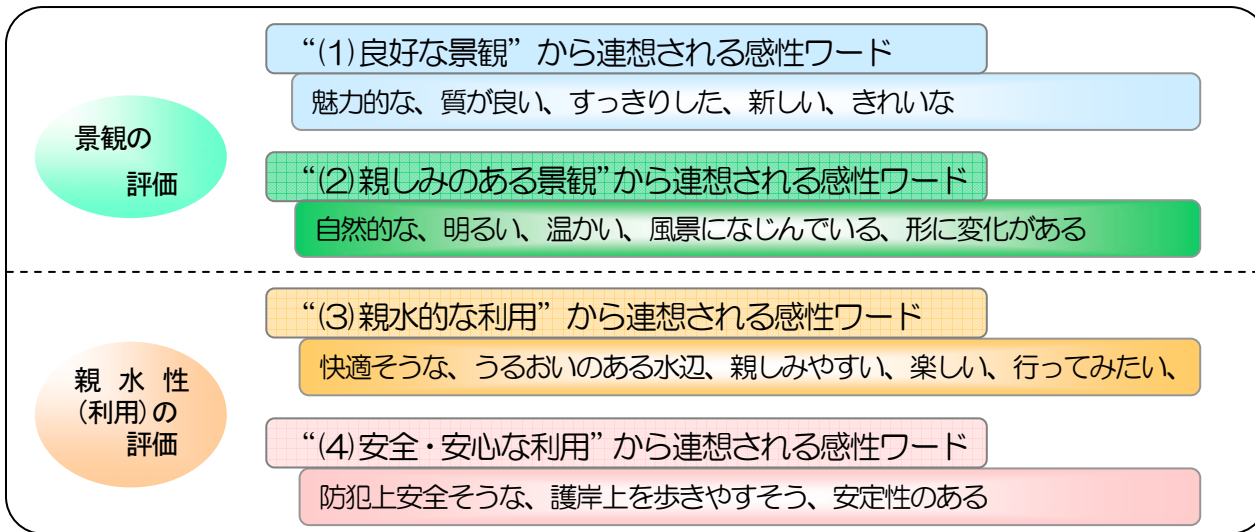
(1) SD 法について

本アンケートで用いている SD (Semantic Differential) 法とは、護岸の「景観」や「親水性」という、人間の心理的な評価にゆだねられるようなものについて、「明るい-暗い」などの相対する意味の言葉を用意して、その間を何段階かに分けて測定し、人間の心理的反応を定量的に分析するものです。

一般的に、心理学的研究の分析に用いられたいり、商品開発の市場調査に用いられていますが、近年では、社会資本整備における橋梁、河川・海岸の構造物のデザインやまちづくりにおける景観評価への適用が進んでいます。

(2) SD 法の設問項目(感性ワード)の設定

護岸改修の目標である、「海と陸との自然な連続性」、「護岸の安全を確保」、「人と三番瀬の健全なふれあい」を念頭において、さらにそれらを景観や親水性(利用)を評価する観点から、「(1)良好な景観」、「(2)親しみのある景観」、「(3)親水的利用」及び「(4)安全・安心な利用」の4つの評価内容を設定し、それらに関連する設問項目(感性ワード)を18個抽出しました。



相対する意味を加えて質問票を作成

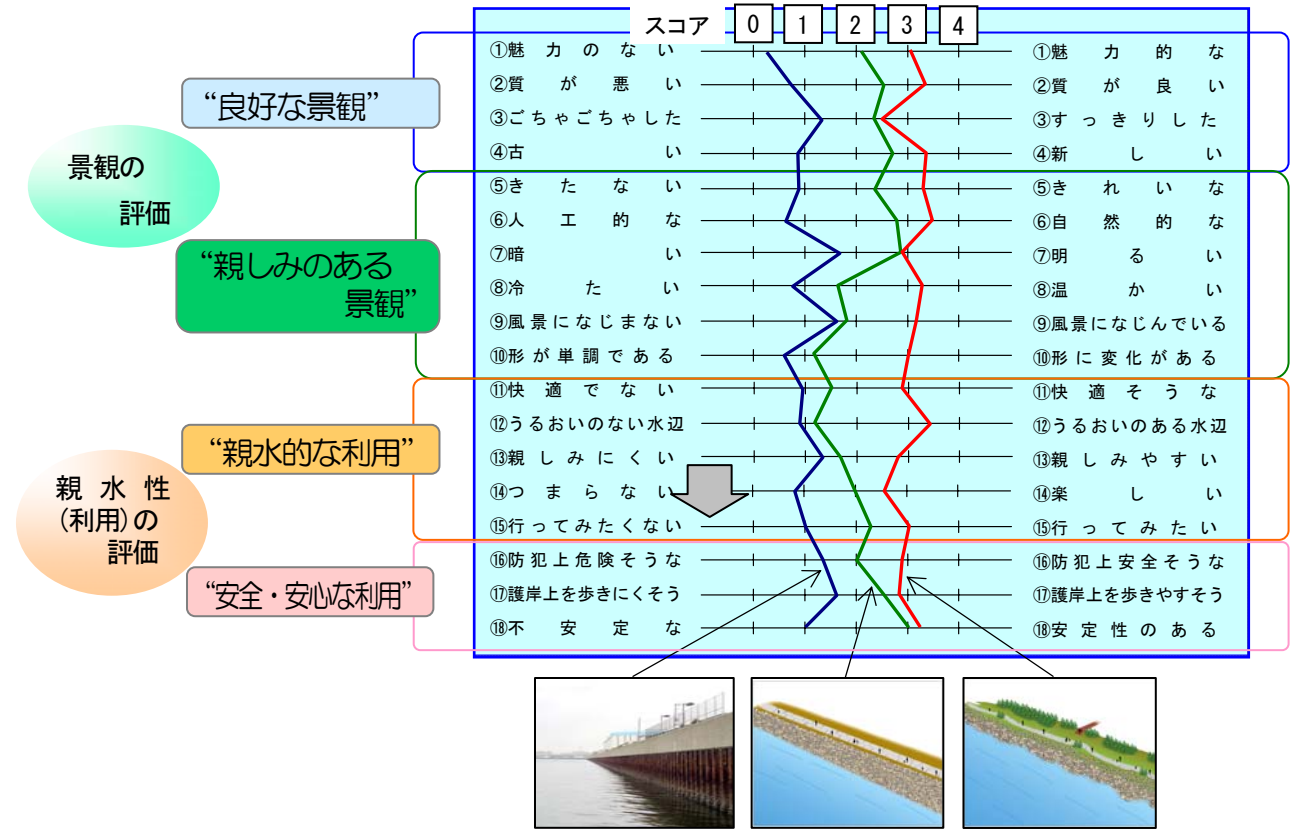
「かなり」「明るい」と感じた場合は、ここに○印をつけてください。

かなり	や	どちらでもない	や	かなり
記入例: 暗いイメージ				記入例: 明るいイメージ
①魅力的でない				①魅力的な
②質が悪い				②質が良い
③ごちゃごちゃした				③すっきりした
④古い				④新しい
⑤きたない				⑤きれいな
⑥人工的な				⑥自然的な
⑦暗い				⑦明るい
⑧冷たい				⑧温かい
⑨風景になじまない				⑨風景になじんでいる
⑩形が単調である				⑩形に変化がある
⑪快適でない				⑪快適そうな
⑫うるおいのない水辺				⑫うるおいのある水辺
⑬親みにくい				⑬親みやすい
⑭つまらない				⑭楽しい
⑮行ってみたいくない				⑮行ってみたい
⑯防犯上危険そう				⑯防犯上安全そう
⑰護岸上を歩きにくそう				⑰護岸上を歩きやすそう
⑱不安定				⑱安定性のある

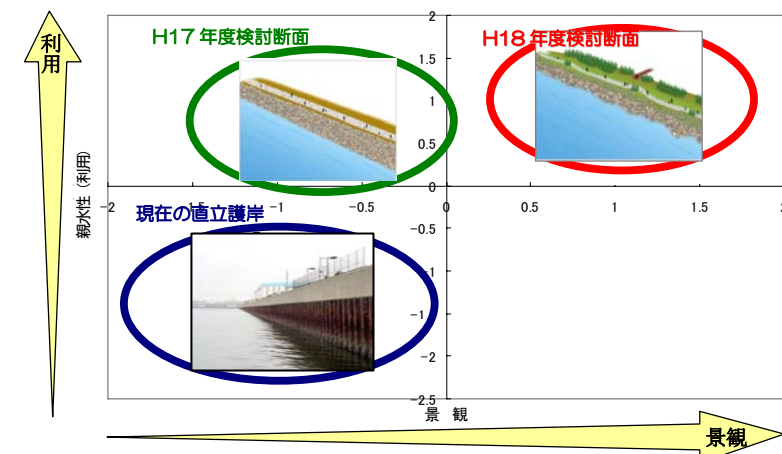
アンケート結果の集計

2. アンケート結果の検証への利用方法、利用例 (SD法による景観、親水性についての評価)

アンケート結果を集計し、SD法による回答は、感性ワード毎に、かなりマイナス評価の点数を0点、かなりプラス評価を4点にするなどして、単純平均や、重み付けによる平均点を計算するなどを行い、下図に示すように感性ワード毎にプロットして見て、現況、旧断面、新断面の各イメージについてどのような傾向があるかを評価します。



また例えば、再度、それぞれの感性ワードの項目をまとめて、上記「景観」及び「親水性(利用)」の観点から評価軸を設定し、下図のように総合的に評価することが考えられます。



検証結果の例

平成18年度に検討された護岸構造は、既設護岸や平成17年度検討断面よりも快適性、安全性の両方の点でプラスに評価された。

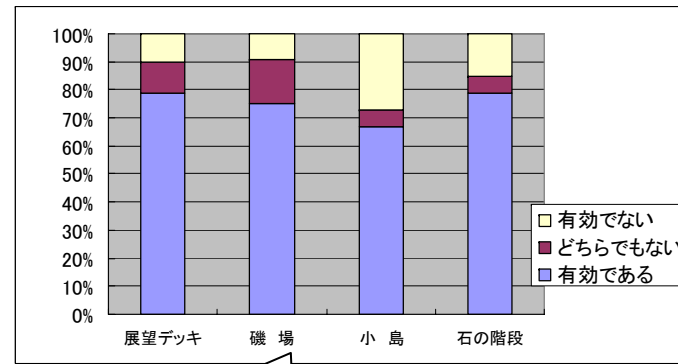
検証結果がプラスの方向に評価されなかった場合には、「改善の必要あり」として新たな断面検討にフィードバックする。

3. SD 法以外のアンケート結果の検証への利用方法、利用例

その他、問8の護岸のバリエーションや、最初と最後の回答者の属性などの個別の質問結果について

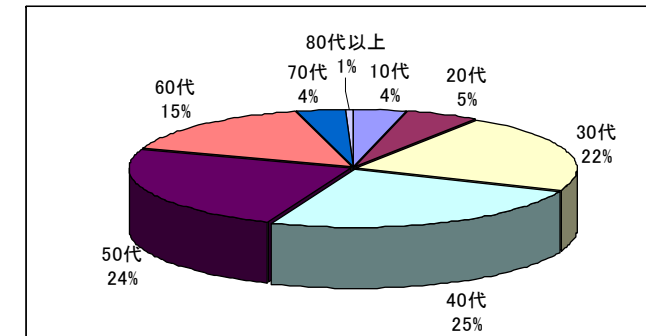
項目毎に集計し、グラフ化することで地域住民の意向や回答者の属性を把握します。

問8-1 それぞれの護岸のバリエーションは、“人々と三番瀬のふれあい”や“海と陸との連続性”の目標に対し有効かどうか？



評価例：回答者は、それぞれのバリエーションに対し、概ね有効と評価している。

問11 あなたの年齢は？



※以上に示したアンケート結果、集計結果やグラフは、あくまでもイメージであり、実際にはここで示したイメージと異なります。
また、結果の評価・検証については護岸検討委員会で検討することとします。